

第 115 回 東葛しぜん観察会

干潟の生き物探検

山口正明（船橋市）

日 時：2015 年 7 月 4（土） 9:40～12:30 天気：曇り

場 所：江戸川放水路河口干潟（市川市）

参加者：一般 13 名（内、子ども 5 名）、指導員 16 名

担当指導員：田島正子、藤澤一博、山口正明

梅雨時の観察会は天気が悩ましい。今回も微妙な天気で、当日朝も結構雨が降っていましたが、ピンポイントの市川の予報では 10 時頃に曇りになるとのこと。予報を信じて実施することに。一般参加予定者には手分けして、実施するが無理をしないで、と電話連絡したところ、当初予定人数の半数が参加されました。終わってみれば、予報より早く雨が上がり、カンカン照りでなかっただけに、絶好の干潟観察となりました。

これまでほぼ毎年、船橋三番瀬で干潟の観察会をして来ましたが、今年は、場所を変えて江戸川放水路河口干潟で実施。泥干潟、砂干潟、土手と葦原と変化に富んでいて、生き物も多様でした。

泥干潟ではヤマトオサガニ、かき礁ではタカノケフサイソガニ、砂干潟ではチゴガニやコメツキガニ、土手の斜面ではカクベンケイガニなど。最初はカニを掴めなかった子どもたちも指導員のアドバイスでしっかりキャッチ。カニの目はカタツムリの角のように引っ込むと思っていた子どもたち、目を手で触ると、横に倒れて収納されることにびっくり。オスとメスの見分け方もわかるようになりました。

貝もいろいろな種類があり、オキシジミ、シオフキ、マガキ、アサリ、コウロエンカワヒバリガイ、ホンビノスガイなど。「これ、けっこう旨いんだよなー」と大人の声も。潮の引きが早く、少し前まで川の中に沈んでいた干潟が現れて、潮だまりにはたくさんのマハゼやシロタエビの姿も見られました。

採集した生き物を持って集合。採ってきた生き物をバットに移して、田島さんからの名解説。カキ殻に生み付けられたイボニシの卵のうやマメコブシガニが縦に歩くことに驚きの声。

最後は干潟の浄化作用を見るための実験。米のとぎ汁と海水で同じように濁った 2 つの水槽を用意し、片方には参加者が採った二枚貝を入れ、しばらく置き、もう一方には貝を入れずに、二つの水槽を比較。二枚貝の入った水は透明に、片方は濁ったまま。そのあまりの違いに誰もが感激。干潟の浄化作用を知り、改めてこの自然環境の大切さを実感できました。子どもたちは「カニをいっぱい見つけられて楽しかった。」「いろいろな生態がわかって楽しかった。」と感想を聞かせてくれました。今回、藤澤さんは初めての担当でしたが、子ども目線を意識した素晴らしいガイドぶりでした。



採集したカニ・貝・小魚など 生き物のお話し